

女子大学ベンチマークの試み

白石哲也（清泉女子大学情報環境センター）・橋本智也（京都光華女子大学 EM・IR 部）・十河功一（九州女子大学・九州女子短期大学 教務・入試課）・下山貴宏（大阪樟蔭女子大学教育開発部）

1. 女子大学ベンチマークの構築

IR（Institutional Research）の活動のひとつに、大学内部の学生アンケートや成績や履修情報などを用いた各種データ分析がある。こうした分析を行うことで、これまで経験や勘に頼っていた部分が可視化され、学内の状況が鮮明に見えてくるようになる。一方で、これらは大学の内部情報の多くは各大学の文脈によって形成されたものが多く、あくまで自大学の状況判断を行うための基礎情報という位置づけとなる。しかし、情報によっては他大学比較のなかで自大学の位置を知るために活用したいという要望も少なくない。すなわち、ベンチマーキング（Benchmarking）である。

ベンチマーキングは、主に民間企業の経営戦略のなかで用いられることが多く、通常いくつかのパフォーマンス指標を用いた比較分析が行われている。そうした比較分析を通じて、自社にない他社の優れた点を取り入れていくことが大切であると言われている。近年では高等教育分野においても IR の高まりと同時に、大学 IR コンソーシアムなどを中心として大学間のベンチマークが構築されている。しかし、前述したように各大学の基礎情報を用いる場合、大学の文脈のなかで情報が形成される。そのため、それらの情報をお互いが活用できるように定義する必要がある。また当然、お互いの大学の規模や特性が類似していなくては、あまり有用とは言えない。

そこで、筆者らは小規模、女子大学という類似する特性を持った4つの大学で実験的にベンチマーキングを行うことにした。本発表では、その構築プロセスと成果及び課題について報告を行う。

2. ベンチマーク構築プロセス

ここでは、ベンチマークを構築する際のプロセスについて言及していく。今回、清泉女子大学、京都光華女子大学、大阪樟蔭女子大学、北九州女子大学の4校でベンチマークの構築を行った（図1）。通常、ベンチマークを構築する場合、学内外で様々な調整が生じる。以下が、実施したプロセスである（表1）。

表1 ベンチマーク構築プロセス

1 段階	学内調整	学内の内諾
2 段階	学外調整	2 大学間での打ち合わせ
3 段階	指標と定義	素案作成
4 段階	指標の確認	4 大学間での指標内容の確認



図1 ベンチマークの実施校（橋本ほか 2016）

3. 図書館データを用いた比較

今回の検討にあたり、筆者らは大学図書館データを用いたベンチマーク構築を実施した。そこでは、蔵書冊数や年間来館回数などいくつかの指標に基づき比較を行った。そこから見てきたものとしては、主に2点が明らかとなった。1)「大学」というレベルの比較は難しい。つまり、かなり学部や学科の特徴に引きずられることが見てきた。また、2) データ数として、4校では少ないということも見てきた。つまり、ベンチマークを行う際には、学部学科単位でベンチマークを構築する必要があり、対象校に関してもそれなりに必要である。

4. 展望

上記の実践を通じた課題から筆者らは、1)の問題である「学部学科間の比較」については、相当な資源を要する必要がある、安易に実施することは難しい。例えば、女子大学コンソーシアムの形成なども考えられ、2)の問題も含めて解決可能な手段のひとつではある。ただし、容易に構築できるものではない。そこで、筆者らは次に段階として「大学におけるベンチマークの方法論」をまずは整理したいと考えている。

謝辞

本発表を行うにあたり、小湊卓夫先生、寫田敏行先生をはじめとする大学評価コンソーシアムの方々には大変お世話になりました。記して、感謝申し上げます。

参考文献

- 池田輝政・神保啓子・中井俊樹・青山佳代（2006）. FDを持続的に革新する ベンチマーキング手法の事始め 大学論集, 37, 115-130.
- 小林雅之・片山英治・劉文君（2011）. 大学ベンチマークによる大学評価の実証的研究 東京大学大学総合教育研究センター.
- 白石哲也・橋本智也・十河功一・下山貴宏（2016）. 図書館データを活用した女子大学ベンチマークの試行から見てくるもの：利点と課題 平成28年度第3回 IR実務担当者連絡会発表資料
- 橋本智也・白石哲也・十河功一・下山貴宏（2016）. 女子大学ベンチマークの構築プロセス：図書館の学習支援を比較対象とした試行 平成28年度第1回 IR実務担当者連絡会発表資料